

第20 重点事業等概要

湖南圏域における世代・分野を超えた地域包括ケアの推進

令和3年度 南部健康福祉事務所

制度や分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を越えて、高齢者だけでなく、地域の住民一人ひとりが生涯にわたり健康づくりを土台にして、病気や介護が必要となった時の事を心配せずに心豊かに安心して暮らせる地域を目指す。

番号	目標項目	目標設定の理由	達成状況 (実績)	達成度	成果と課題	基本構想実施計画関連箇所	担当係
1	健康危機への的確な対応	健康危機への的確な対応 保健所は地域の健康危機管理拠点であり、平常時から食中毒予防や感染症予防に対する県民意識の向上を図るとともに、危機管理に強い組織体制の整備、および人材育成を進める。 また、関係機関と連携して平時より地域体制整備に努め、新興感染症、災害等を含む健康危機発生時には、的確に対応し、安全安心な社会の実現を目指す。	・新型コロナ感染症による健康危機発生への対応 積極的疫学調査等患者発生時対応：18,607例(疑似含む) ①南部地域感染症予防対策連絡会(幹事会・情報交換会) 5回 ・IONによる研修会の開催 1回 ・県庁クラスター班による研修会の開催 1回 ②健康危機管理調整会議の開催 2回 ③湖南圏域災害医療体制検討委員会開催 1回 ④保健衛生講座開催 ・13回 ・受講者 198人	◎	①② ・新型コロナウィルス感染症による健康危機の発生に対し、感染拡大状況の変化も踏まえた迅速な積極的疫学調査を実施し感染拡大防止に努めた。あわせて、健康危機管理調整会議の開催、関係機関との調整・連携により医療提供体制を確保するとともに、療養支援のしくみづくりを行った。 ・感染症予防対策連絡会のネットワーク・専門性を活用するため、新型コロナウィルス感染症の最新の動向を共有し、集団感染のリスクが高い介護等事業所や医療機関等、感染対策の充実・強化が求められる機関を対象とした研修会や情報発信を行うことができた。 ③ 保健所を災害医療の拠点とする体制について、関係機関(災害拠点病院、医師会等)の理解を得、機能向上に向けての取り組みを進められている(検討委員会継続開催、実働訓練の実施等)。今年度hα管内4市2市において実働訓練が継続実施。今年度においては、医師会と市との協定に基づく連携方法など具体的行動について検討することができた。圏域内での災害医療体制の構築が前進した。 ④ 新型コロナウィルス感染症が拡大し、三密回避のため通常開催していた講習会も中止することになり、衛生講習会は計画どおり実施できなかった。消費者や事業者への衛生指導の継続は、安全・安心に係る正しい知識と行動の普及と啓発に必須である。今後も、新型コロナウィルス感染症の動向を注視し、消費者には食中毒対策と衛生的な食品の取り扱い、営業者にはHACCPの考えを取り入れた衛生管理の適切な実施を進めていく。	1人 自分らしい未来を描ける生き方 ①生涯を通じた「からだところ」の健康 政策(2)本人の暮らしを真ん中においた医療福祉の推進	総務係 地域保健福祉係 生活衛生係
2	世代、分野を超えた地域包括ケアシステムの構築	2025年を見据え、高齢者のみならず、生涯を通じた地域包括ケアシステムの構築に向け、圏域の医療保健福祉関係者が人的ネットワークを形成し、自助・互助・共助・公助を組み合わせた協働して取り組みを進めることにより「一人ひとりが最期まで安心して心豊かに暮らせる地域」づくりを推進する。 (湖南圏域医療福祉ビジョンの実現)	①連携強化に向けた会議等の場の設定 実績：計16回 医療・介護等+連携 計7回 ・2025年医療福祉推進協議会 1回(9/24) ・認知症疾患医療連携協議会 未開催 ・各市別に認知症対策についてのヒアリングを実施(4回) ・病院 在宅連携検討会議 1回(12/6) 部会 1回(遠隔調整部会 6/29、ケアマネ部会 未開催) ・在宅療養を支える圏域検討会議 未開催 ・難病対策地域協議会 未開催 ・難病患者等の災害時個別計画策定に関する担当者会議 1回(1/6) ・精神保健福祉医療地域包括ケアシステム協議会 未開催 措置入院・長期入院者の退院および在宅支援部会 1回(12/7) 湖南圏域ひきこもり支援部会 1回(11/15) ・小児救急医療体制：行政担当者情報交換会 2回、連絡会議 2回 ・周産期保健医療連絡調整会議 未開催 医療的ケア児の在宅療養の課題把握を目的に勉強会を開催 2回 ②地域の多職種連携研修等、質の高いケア提供のための人材育成 研修等 ・在宅医療(未開催)・認知症 2回(6/10,10/14)・精神(2回) ・周産期(未開催) 計画：計3回 実績：計4回	○	・これまで重点として進めてきた圏域の地域包括ケアシステムの目指す姿は変わらず、構築したネットワークを活かして新型コロナ感染症患者への支援の取り組みを進めることができた。 ・新型コロナ健康危機対応を最優先に業務継続を行い、一部、会議や集合型研修を縮小しつつ、小規模の部会や市ごとの意見交換会など、連携強化に向けた会議等の場を設定できた。 加えて、新型コロナ感染症を通じて圏域内の関係機関・団体と連携・協働した支援体制の検討、整備につながった。 ・R3 4月から小児救急医療体制ブロック化実施。実施後においても、関係機関とスムーズな体制移行に向けて継続検討を行った。 ・研修は、新型コロナ感染症の感染拡大が落ち着いた時期に、zoomを活用する等により、コロナ禍においても必要な人材育成に努めた。 ・新型コロナ健康危機対応の経験をもとに柔軟に対応力のある地域包括ケアシステムの構築に活かしていくため、引き続き関係機関と協議や検討を行っていく必要がある。	1人 自分らしい未来を描ける生き方 ①生涯を通じた「からだところ」の健康 政策(2)本人の暮らしを真ん中においた医療福祉の推進	総務係 医療福祉連携係 地域保健福祉係
3	生涯を通じた健康づくりの充実強化	健康寿命の延伸をめざし、湖南圏域の保健医療福祉関係者が連携して、食・運動・禁煙など、健康づくり、生活習慣病に対する予防の推進に向けた支援を強化する。 特に働き盛り世代をターゲットとした健康なまちづくりを目指し取り組みを進める。	①地域、企業、保険者の連携強化に向けた協議の場の設定・実践 ・みんなでコロナヘルス推進会議：未開催 ・地域、職域、保険者等のコラボによる出前講座情報の更新 出前講座 利用：未実施 ・湖南圏域糖尿病対策推進会議 未開催 ・糖尿病重症化予防に関する実態調査(R2実施)について、医師会定例会および研修会での結果報告を実施( ) ・歯科保健推進会議の開催：未開催 ②質の高いケア提供のための人材育成 研修等 3回(健康づくり、糖尿病、歯科) 新型コロナ感染拡大防止のため集合研修 未開催	△	・新型コロナ健康危機対応を最優先にBOPに沿って業務継続を行い、感染拡大防止も考慮して、会議や集合型の研修を縮小した。 ・糖尿病予防・重症化予防のため、令和2年度に医師会と協働で実施した医療連携に関する実態調査結果の報告を行い、地域の実態、課題について共有することができた。今後、関係機関とともに具体的な取り組みの検討を進める必要がある。 ・コロナ禍における働き盛り世代の健康づくりへの影響を明らかにし、Withコロナの状況において、働き盛り世代が主体的に健康づくりに取り組めるよう、各団体の資源や情報を効果的に届ける方法を検討する必要がある。また、研修など従事者人材育成についても実施方法を検討する必要がある。	1人 自分らしい未来を描ける生き方 ①障害を通じた「からだところ」の健康 政策(1)生涯を通じた健康づくり	医療福祉連携係

※「達成状況」 ◎ 目標を超えて達成(100%超)、○ 目標どおり達成(100%)、△ 目標の半ば以上の実績(50%以上)、× 目標の半ば以下の実績(50%未満)